

中期目標・中期計画（素案）

鳥取大学

平成21年6月29日

国立大学法人鳥取大学中期目標・中期計画（素案）

中 期 目 標	中 期 計 画
<p>（前文）大学の基本的な目標</p> <p>教育研究の理念として「知と実践の融合」を掲げ、高等教育機関としての大学の役割である、人格形成、知識の伝授、能力開発、知的生産活動、文明・文化の継承と発展などに関する学術を教育・研究するとともに、知力のみでの教授ではなく、これを実践できる能力も養成することを目指して、以下の3つを教育研究の目標とする。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 社会の中核となり得る教養豊かな人材の養成 2 地球的、人類的及び社会的課題解決への先端的研究 3 地域社会の産業と文化等への寄与 <p>これらの全体目標に沿って、各領域において次のように目標を設定し、学長のリーダーシップの下に、その実現に取り組む。</p> <p>教育 大学の使命と役割はまず教育であり、引き続き教育重視の方針を掲げ、特に、社会が求めている「人間力の豊かな人材の養成」に力を注いで、卒業時には学生に社会に適切に対応できる学士力を獲得させることを目指す。</p> <p>研究 学術研究推進戦略に掲げる「持続性ある生存環境社会の構築」に向けて、基盤的研究を支援するとともに、本学の特色を活かして環境とライフサイエンス等の学際的研究分野の育成を図り、研究拠点形成を推進する。</p> <p>社会貢献 日本だけでなく世界に役立つ研究等の成果を社会に還元するとともに、大学の知的財産を活用した地域産業の育成や地域教育の発展、地域の活性化に貢献し、地域になくてはならない大学を目指す。</p> <p>国際交流 海外の大学、研究機関等との交流を一層促進し、交流協定の締結及び単位互換制度の導入による学生交流の実質化、共同研究の推進等を目指す。</p> <p>医療 地域の中核医療機関として、社会に貢献し、患者に信頼される安全で質の高い医療を提供するとともに、将来を担う高度な医療人</p>	

の養成と先進医療の研究開発を推進する。さらに経営をより効率化し、安定的な経営基盤の確立を目指す。

その他の教育研究活動等 乾燥地研究センターの充実及び附属学校、学内共同教育研究施設等の組織体制の見直しを通じて、学内外の教育研究等が活発に行われる施設となることを目指す。

業務運営等 組織及び業務の見直しを不断に行い、効率的・機動的な大学運営を目指すとともに、全ての教職員の意識改革を図りつつ、大学の個性・特色を明確にして活力ある経営を目指す。また、競争的資金等の自己収入増、経費抑制に努め安定した大学経営を目指す。

◆ 中期目標の期間及び教育研究組織

1 中期目標の期間

平成22年4月1日から平成28年3月31日までの6年間

2 教育研究組織

この中期目標を達成するため、別表1に記載する学部・研究科等及び別表2に記載する共同利用・共同研究拠点を置く。

I 大学の教育研究等の質の向上に関する目標

1 教育に関する目標

(1) 教育内容及び教育の成果等に関する目標

1) 豊かな教養と人間性、専門性を備えた人間力の優れた人材を養成する。

I 大学の教育研究等の質の向上に関する目標を達成するためにとるべき措置

1 教育に関する目標を達成するための措置

(1) 教育内容及び教育の成果に関する目標を達成するための措置

- 1) 人間性を豊かにする教養教育を充実するとともに、人間力を高めて、幅広い職業人を養成するために、カリキュラムを不断に見直す。
- 2) 基礎知識を確実に習得させ、課題発見、問題解決の能力向上のための対策を充実する。
- 3) 倫理教育、安全教育、環境問題、知的財産、情報セキュリティに関する教育を充実し、高い責任感を有する職業人を養成する。
- 4) 海外での実践教育を推進し、国際的な課題にも対応できる幅広い人材を養成する。

2) 学生の学習意欲や目的意識を高める教育を実施するとともに、社会の要請を踏まえた人材育成に関する教育を推進する。

3) 本学の教育研究理念に即した「知」のみならず、強い「実践的マインド」を有する学生の受け入れ方を適切に講じる。

(2) 教育の実施体制等に関する目標

1) 大学における教育の質の保証・向上に資するよう制度・組織を見直し、整備・充実する。

2) 学生の学習効果を向上させるため、教育・学習環境を整備・充実する。

5) 創造性豊かな優れた研究開発能力を有する高度な専門職業人を養成する。

6) 時代に応じた授業科目をカリキュラムに取り入れるなど、学生の学習意欲を高める授業を開講する。

7) 専門分野での早期体験実習を通じて、各専門分野への関心を高める教育を実施する。

8) 産業界、地域社会との連携により、問題解決に向けた交流の場を積極的に活用し、実習、インターンシップ、卒業研究等、学生への教育に反映させる。

9) アドミッション・ポリシーに応じた入学者選抜を実施するため、一般選抜、推薦、AO入試等の多様な選抜方法の見直しを行う。

10) 鳥取県内高校生の志願率及び入学率を向上させるため、小・中・高・大学連携を更に推進する。

11) オープンキャンパスの内容を更に魅力あるものにするとともに、広報誌やホームページにおいて、学生の受け入れに関する情報を充実させる。

(2) 教育の実施体制等に関する目標を達成するための措置

1) 大学教育支援機構を中心として教育の質を確保し、教育内容等の明確化や厳格な成績評価を学生に周知徹底するため、大学教育支援機構を充実する。

2) 学士課程教育に関する三つの基本方針（学位授与、教育課程の編成と実施、入学者の受入れ）に沿って、学部・研究科の教育の質の向上を推進する。

3) 教育センターを中心に、学生による授業評価の結果を授業改善に反映させるための取組を促進するとともに、教員相互の授業評価と学生の意見を取り入れたFDを実施し、教育の質を保証する体制を整備する。

4) 社会情勢並びに教育研究活動に対する社会的ニーズを踏まえた特色ある教育を実施するため、教育研究組織を再編・整備する。

5) 附属図書館、総合メディア基盤センター等を活用して、教育に必要な設備、図書館資料、情報ネットワーク等の整備を推進し、教育・学習環境を充実する。

6) 国内の国公立大学との連携を促進し、各大学の教育研究資源を有効に活用する。特に、獣医学教育においては、岐阜大学との教育課程の共同実施を目指す。

(3) 学生への支援に関する目標

1) 大学生活における総合的な学生支援を行うため、学生に対する経済的支援、相談体制等を充実する。

2) 体系的なキャリア教育を充実するとともに、就職支援を強化する。

(3) 学生への支援に関する目標を達成するための措置

1) 教職員が連携し、学生に対する学習・生活・就職等のきめ細かな相談・指導が実施できるよう、ハラスメント防止を含めた体制を強化する。
2) 学部生や大学院生に対する奨学金制度等による経済的支援を充実する。
3) 課外活動支援制度及び学生相談員制度などを充実する。
4) 保健管理センターを中心に、健康教育及び健康相談を充実させ、きめ細かい健康管理の活動を支援する。

5) キャリア支援組織体制を強化し、社会人、職業人として自立できる能力を養成するキャリア教育を充実する。

6) 学生への就職支援情報の提供機能を強化するとともに、就職ガイダンス等を充実する。

2 研究に関する目標

(1) 研究水準及び研究の成果等に関する目標

1) 基礎的、萌芽的分野の育成を図りつつ、本学の特色ある分野については、世界最高水準の研究を推進する。

2) 地域社会や産業界の課題解決に向けた研究を推進するととも

2 研究に関する目標を達成するための措置

(1) 研究水準及び研究の成果等に関する目標を達成するための措置

1) 本学の特性を生かした多様な学術研究機能を充実できるよう、教員の自由な発想に基づく基礎的、萌芽的研究を推進するための研究環境を整備する。
2) 選択と集中により乾燥地科学、菌類きのこ資源科学、染色体工学、人獣共通感染症等の環境及びライフサイエンスに特化した学際的研究プロジェクトを育成する。

3) 地域社会や産業界等が抱える諸課題の解決に向けて、自治体、学外の関係諸機関等

に、その研究成果を広く社会へ還元することにより、持続性のある生存環境社会の構築に寄与する。

との共同研究を積極的に実施するとともに、自治体、経済団体等からの要請にも積極的に対応する。

4) シーズ発表会、学会活動及びホームページの活用等、各種広報手段を通じて、研究成果を広く社会へ還元する。

(2) 研究実施体制等に関する目標

1) 優秀な研究者を広く国内外に求めることにより、国際的競争力をもった卓越した研究拠点を形成する。

2) 最高水準の研究を推進できる環境を整備・充実する。

(2) 研究実施体制等に関する目標を達成するための措置

1) 学術研究推進戦略に基づき選択と集中により本学の特性を活かした環境とライフサイエンス等の学際的研究分野を重点的に推進する研究拠点を形成する。

2) 優秀な人材を確保するため国際公募を導入するとともに、ポスドク等の若手研究者を積極的に登用する。

3) グローバルCOEプログラム等大型の研究プロジェクト組織を充実させ、研究拠点活動を強化する。

4) 設備マスタープランに基づく全国および全学共同利用の研究設備の優先的導入、支援スタッフの充実など研究支援体制を充実する。

5) 研究の進展と社会の要請に応じ、研究組織の見直し等を行うとともに、国内外の研究機関との連携を強化する。

3 その他の目標

(1) 社会との連携や社会貢献に関する目標

1) 国、地方自治体、民間団体、さらに他の高等教育機関等との連携を強化し、産官学連携機能を強化する。

2) 地域のニーズを的確に把握し、地域の知の拠点として社会貢

3 その他の目標を達成するための措置

(1) 社会との連携や社会貢献に関する目標を達成するための措置

1) 産学・地域連携推進機構を窓口として、全学的な産官学連携推進体制を強化する。

2) 産学・地域連携推進機構を中心に、本学の教育研究の成果を積極的に広報活動を行うとともに、民間企業との共同研究の推進や大学発ベンチャーの育成支援を実施する。

3) 研究を通じて創出された知的財産を効果的に技術移転する活動を展開する。

4) 少子・高齢化や過疎化等、地域社会の諸課題の解決に資するため、本学の知を結集

献機能を強化する。

3) 地域の人材育成を推進するとともに、地域教育や地域文化の振興に貢献する。

(2) 国際化に関する目標

1) 教育、研究及び社会貢献に係る大学の国際化を強化する。

2) 留学生受入、日本人学生派遣及び教職員の相互交流等、教育研究活動に関連した国際交流活動及び国際協力事業を充実する。

し、地域の活性化を推進する活動を積極的に実施する。

5) 地域社会や住民のニーズに応えたりカレント教育、生涯学習、公開講座、出前講座及び各種研修会等を企画し、実施する。

6) 社会人の大学院入学を促進するとともに、次世代の子どもたちをはじめ地域住民に対し質の高いものづくり等、科学技術の知識と技能を提供する。

7) 鳥取県並びに市町村教育委員会と連携し地域教育の充実を支援するとともに、地域学部附属芸術文化センターを中心に地域の芸術文化の振興に貢献する。

(2) 国際化に関する目標を達成するための措置

1) 海外拠点、国際戦略本部等の組織・機能を充実し、国際的な教育・研究活動への支援と危機管理能力を強化するとともに、大学情報の多言語化を推進する。

2) 外国人教員による語学教育、英語による授業科目、教職員を対象とした英語、中国語、韓国語、スペイン語の研修を充実・強化する。

3) 地域の行政機関、教育機関等との連携を一層強化し、地域社会の特徴を活かした国際交流活動を実施する。

4) 留学生30万人計画に沿った留学生の受入れを拡大するため、修学及び生活支援等の留学生を支援する体制の一元化等、留学生受入のための環境を整備・充実する。

5) 日本人学生及び教職員の派遣を拡大するため、語学力の強化プログラムや留学ガイドダンス等の充実、及び国際共同研究情報の広報活動を強化する。

6) 学術交流協定校等との連携を一層強化し、短期留学プログラムを構築するとともに、ダブルディグリー、文化体験プログラム等、本学の特徴を活かした交流プログラムを充実・拡大する。

7) 持続性ある地球環境を維持保全するため、主として開発途上国の人材育成や各種技術協力を、(独)国際協力機構(JICA)等の国際支援機関と連携し推進する。

(3) 附属病院に関する目標

- 1) 高度な医療人の養成を行うとともに、良質な医師及び医療従事者を確保し、医療の質を向上させ、地域医療に貢献する。
- 2) トランスレーショナル・リサーチ（基礎研究の臨床応用）を展開するとともに、先進医療の研究開発を推進する。
- 3) 大学病院の業務に専念できる環境を整備する。
- 4) 病院の社会的責任を果たし、患者中心の安全・安心で効率的な病院運営を実践する。

(4) 附属学校に関する目標

- 1) 大学附属としての附属学校の特性を活かし、全学体制による研究の推進と先導的な教育を実践し、大学への成果の還元を図る。
- 2) 全学体制による開放制の教員養成の特色を活かし、複数学部等の学生等による学際的な教育実習の場を形成する。

(3) 附属病院に関する目標を達成するための措置

- 1) 臨床教育・実習の充実及び医療の質の向上のため、卒前教育及び卒業後初期・後期臨床研修並びに総合診療や生涯教育のための体制を充実する。
- 2) 地域が求める医師及び医療従事者を養成するための教育・研修を充実する。
- 3) 臨床研究経費を拡充するとともに、施設・設備等の基盤を整備するなど、臨床研究支援体制を充実して、先端医療技術の開発を推進する。
- 4) 多様な人事制度と働きがいのある職場環境による、柔軟で機動的な管理体制を構築する。
- 5) 医師・看護師及び医療従事者の業務実績等の評価に基づいて人員の適正配置を行い、環境の改善を行う。
- 6) 患者本位の安全・安心な質の高い医療を実践するため、病院長のリーダーシップのもと、人材・資金・施設設備などを効率的に活用する。
- 7) 地域関連医療機関との連携推進と地域が求める医療体制を充実する。

(4) 附属学校に関する目標を達成するための措置

- 1) 本学が保有する大学の資源を活用し、附属学校の新たな展開と活用に取り組む。
- 2) 幼児から社会人までを対象とした「生涯にわたる教育」の共同研究体制を構築し、附属学校等を活用して発達科学研究等の研究を推進する。
- 3) 附属学校部運営委員会の機能充実等を通じて、全学的なマネジメント体制を充実させる。
- 4) 全学の教員で組織する教育実習委員会を中心に教育実習を計画し、教員免許の取得を希望する各学部の学生の教育実習を行う。

<p>3) 地域の教育委員会等との連携のもと、地域教育の「モデル校」としての機能を強化する。</p>	<p>5) 地域運営協議会（仮称）の設置や地域の教育委員会等との連絡窓口の設置等を通じて、地域との連携を強化する。 6) 現職教員の免許更新講習の実践、研修カリキュラムの開発等に附属学校を活用する。</p>
<p>II 業務運営の改善及び効率化に関する目標</p> <p>1 組織運営の改善に関する目標</p> <p>1) 社会が大学に求めるニーズに的確に対応するため、学長のリーダーシップが機動的・戦略的に発揮できるよう大学運営体制を強化する。</p> <p>2) 職員の技術・経験等を活かした人員配置、勤務形態、人材育成等により教育研究支援機能を充実する。</p> <p>3) 共同利用・共同研究拠点として認定を受けた研究施設の体制を強化する。</p>	<p>II 業務運営の改善及び効率化に関する目標を達成するためにとるべき措置</p> <p>1 組織運営の改善に関する目標を達成するための措置</p> <p>1) 学長を中心とした運営体制を機動的・戦略的なものとするため、諸会議の効率化を推進するとともに、部局等の連携体制を強化する。 2) 予算編成については基本方針を明確にし、学長等裁量による予算及び定員の確保、情報技術革新等を通じて、戦略的活動を推進する。</p> <p>3) 短時間勤務制度の活用等による多様な働き方を工夫するとともに、研修を充実させ職員の能力向上を促進する。 4) 職員の能力開発等に活用するため、職員の人事評価システムをより効果的に行えるよう整備する。 5) 教育研究支援機能を充実するため、技術系職員の技術等の専門性を高める。</p> <p>6) 共同利用・共同研究拠点（乾燥地科学拠点）として認定された施設としての機能を適切に果たすため、乾燥地研究センターの組織等を整備する。</p>
<p>2 事務等の効率化・合理化に関する目標</p> <p>1) 業務の更なる見直し等により、機能的な業務運営を行う。</p>	<p>2 事務等の効率化・合理化に関する目標を達成するための措置</p> <p>1) 業務内容を更に見直し、事務の簡素化、業務の外部委託、事務の電子化等を通じて機能的な業務運営を行う。</p>

<p>Ⅲ 財務内容の改善に関する目標</p> <p>1 外部研究資金、寄附金その他の自己収入の増加に関する目標</p> <p>1) 大学運営の一層の充実のため、競争的資金等による自己収入の獲得増を目指す。</p>	<p>Ⅲ 財務内容の改善に関する目標を達成するためにとるべき措置</p> <p>1 外部研究資金、寄附金その他の自己収入の増加に関する目標を達成するための措置</p> <p>1) 競争的資金等の公募情報の収集、外部資金獲得につながる研究成果の広報活動等を推進する。</p> <p>2) 企業シーズ等の情報収集システムを構築して、共同研究、受託研究を増加させるとともに、知的財産を活用して外部資金を積極的に獲得する。</p>
<p>2 経費の抑制に関する目標</p> <p>(1) 人件費の削減</p> <p>1) 「簡素で効率的な政府を実現するための行政改革の推進に関する法律」(平成18年法律第47号)に基づき、平成18年度以降の5年間において国家公務員に準じた人件費削減を行う。更に、「経済財政運営と構造改革に関する基本方針2006」(平成18年7月7日閣議決定)に基づき、国家公務員の改革を踏まえ、人件費改革を平成23年度まで継続する。</p>	<p>2 経費の抑制に関する目標を達成するための措置</p> <p>(1) 人件費の削減</p> <p>1) 「簡素で効率的な政府を実現するための行政改革の推進に関する法律」(平成18年法律第47号)に基づき、国家公務員に準じた人件費改革に取り組み、平成18年度からの5年間において、△5%以上の人件費削減を行う。更に、「経済財政運営と構造改革に関する基本方針2006」(平成18年7月7日閣議決定)に基づき、国家公務員の改革を踏まえ、人件費改革を平成23年度まで継続する。</p>
<p>(2) 人件費以外の経費の削減</p> <p>1) 管理的経費の削減に向けた計画的な取り組みを推進する。</p>	<p>(2) 人件費以外の経費の削減</p> <p>1) 業務の外部委託、事務の効率化、光熱水量の節減等の管理的経費の削減に向けた取り組みを検証し、新たな削減方策を検討して実施に移す。</p>
<p>3 資産の運用管理の改善に関する目標</p> <p>1) 健全な大学経営を行うため、資産の正確な実態把握に基づき、効率的・効果的に運用する。</p>	<p>3 資産の運用管理の改善に関する目標を達成するための措置</p> <p>1) 資産(土地・建物・設備・資金)について、全学的視点に立った効率的・効果的な運用・管理を行う。</p>

<p>IV 自己点検・評価及び当該状況に係る情報の提供に関する目標</p> <p>1 評価の充実に関する目標</p> <p>1) 自己点検・評価等に係る体制の充実及び評価方法等の改善を通じて、効果的な評価を目指す。</p>	<p>IV 自己点検・評価及び当該状況に係る情報の提供に関する目標を達成するためにとるべき措置</p> <p>1 評価の充実に関する目標を達成するための措置</p> <p>1) 自己点検・評価活動等を組織的・継続的に実施し、結果を大学運営等の改善に資するとともに、社会に向けて公開する。</p> <p>2) 大学評価室の機能向上と部局等との連携を強化するとともに、大学情報をデータベース化し評価に活用する情報システムを構築する。</p> <p>3) 教員の業績評価システムの整備を進め、評価結果を教育研究活動等に積極的に活用する。</p>
<p>2 情報公開や情報発信等の推進に関する目標</p> <p>1) 大学のブランドイメージを高めるために、大学に関する情報の戦略的・効果的な発信等を行う。</p>	<p>2 情報公開や情報発信等の推進に関する目標を達成するための措置</p> <p>1) 卒業生に対する大学情報発信等の体制を構築する。</p> <p>2) マスメディアを活用し、大学の持つ知的資源、教育研究成果を広く社会に公開する。</p>
<p>V その他業務運営に関する重要目標</p> <p>1 施設設備の整備・活用等に関する目標</p> <p>1) 大学の理念に基づき、教育研究等の推進及び人間力の涵養に資するため、施設設備の計画的な整備を進め、また、管理を充実させて効率的活用を推進する。</p> <p>2) 学生や職員のアメニティに配慮した質の高いキャンパス環境の整備を推進する。</p>	<p>V その他業務運営に関する重要目標を達成するためにとるべき措置</p> <p>1 施設設備の整備・活用等に関する目標を達成するための措置</p> <p>1) 経営戦略を反映させた全学的な施設整備構想に基づき、適正な施設設備の維持及び整備を行う。</p> <p>2) 補助金以外の資金活用を含めた、新たな手法による施設整備（学生寮など）を推進する。</p> <p>3) 施設の利用状況に関する実態調査等を実施し、効率的な活用を行う。</p> <p>4) キャンパスアメニティ、緑地環境に配慮した施設整備を推進するとともに、環境マネジメントの実践により快適なキャンパス作りを推進する。</p>

<p>2 安全管理に関する目標</p> <p>1) 安全なキャンパスの構築に向け、施設及び環境整備を推進し、危機管理体制を充実する。</p> <p>2) 職員及び学生等の安全衛生等に関する意識啓発、快適な教育研究・労働環境の確保等により安全衛生管理を充実し、災害等を防止する。</p>	<p>2 安全管理に関する目標を達成するための措置</p> <p>1) 危機管理マニュアル等の見直しを行い、危機管理体制を充実する。</p> <p>2) 耐震性の向上、地域社会に開かれたユニバーサルデザイン化、防犯設備の充実等を通じて、安全安心な施設整備を推進する。</p> <p>3) 職員や学生等に対する安全衛生の講習会、実地訓練等の安全教育を実施する。</p> <p>4) 衛生管理者等の有資格者の養成と適切な配置を行うとともに、危険有害業務の実施状況を把握し、リスク軽減のための方策を講じる。</p>
<p>3 法令遵守に関する目標</p> <p>1) 研究に関連する法令等を遵守し、体制を整備・充実するとともに、研究費等の適切な執行を行う。</p>	<p>3 法令遵守に関する目標を達成するための措置</p> <p>1) 研究費等の不正使用防止体制による内部牽制機能等を検証するとともに、不正防止の研修会、説明会等を実施し、研究費の適切な執行を行う。</p> <p>2) 遺伝子組換え実験、動物実験、アイソトープ実験の関連法令等を遵守するための全学的体制を充実させる。</p>
	<p>(その他の記載事項) (別紙に整理) 【別紙については、原案提出時に添付】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○予算(人件費の見積りを含む)、収支計画及び資金計画 ○出資計画 ○短期借入金の限度額 ○長期借入金又は債券発行の計画 ○重要財産の処分(譲渡・担保提供)計画 ○剰余金の使途 ○施設・設備に関する計画

別紙

中期目標		中期計画		年度計画	
別表1 (学部、研究科等)		別表 (収容定員)		別表 (学部の学科、研究科の専攻等)	
学部	地域学部 医学部 工学部 農学部	平成 22 年 度	地域学部 760人 医学部 1,165人 (うち医師養成に係る分野 495人) 工学部 1,800人 農学部 1,010人 (うち獣医師養成に係る分野 210人)	地域学部	地域政策学科 198人 地域教育学科 198人 地域文化学科 186人 地域環境学科 178人
研究科	地域学研究科 医学系研究科 工学研究科 農学研究科 連合農学研究科 (鳥取大学, 島根大学, 山口大学で構成する連合大学院) 山口大学大学院連合獣医学研究科の参加校		地域学研究科 60人 (うち修士課程 60人) 医学系研究科 330人 (うち修士課程 82人) (うち博士課程 248人) 工学研究科 369人 (うち修士課程 306人) (うち博士課程 63人) 農学研究科 122人 (うち修士課程 122人) 連合農学研究科 51人 (うち博士課程 51人)	医学部	医学科 495人 (うち医師養成に係る分野 495人) 生命科学科 160人 保健学科 510人
別表2 (共同利用・共同研究拠点)				工学部	機械工学科 260人 知能情報工学科 240人 電気電子工学科 260人 物質工学科 240人 生物応用工学科 160人 土木工学科 240人 社会開発システム工学科 240人 応用数理工学科 160人
乾燥地研究センター				農学部	生物資源環境学科 800人 獣医学科 210人 (うち獣医師養成に係る分野 210人)

平成 23 年 度	地域学部 760人 医学部 1,175人 (うち医師養成に係る分野 505人) 工学部 1,800人 農学部 1,010人 (うち獣医師養成に係る分野 210人)
	地域学研究科 60人 (うち修士課程 60人) 医学系研究科 326人 (うち修士課程 82人) (うち博士課程 244人) 工学研究科 369人 (うち修士課程 306人) (うち博士課程 63人) 農学研究科 122人 (うち修士課程 122人) 連合農学研究科 51人 (うち博士課程 51人)
平成 24 年 度	地域学部 760人 医学部 1,185人 (うち医師養成に係る分野 515人) 工学部 1,800人 農学部 1,010人 (うち獣医師養成に係る分野 210人)

地域学研究科	地域創造専攻 30人 (うち修士課程 30人) 地域教育専攻 30人 (うち修士課程 30人)
医学系研究科	医学専攻 200人 (うち博士課程 200人) 生命科学専攻 35人 (うち修士課程 20人) (うち博士課程 15人) 機能再生医科学専攻 43人 (うち修士課程 22人) (うち博士課程 21人) 保健学専攻 40人 (うち修士課程 28人) (うち博士課程 12人) 臨床心理学専攻 12人 (うち修士課程 12人)
工学研究科	機械宇宙工学専攻 96人 (うち修士課程 78人) (うち博士課程 18人) 情報エレクトロニクス専攻 108人 (うち修士課程 90人) (うち博士課程 18人)

地域学研究科 60人
 (うち修士課程 60人)
 医学系研究科 326人
 (うち修士課程 82人)
 (うち博士課程 244人)
 工学研究科 369人
 (うち修士課程 306人)
 (うち博士課程 63人)
 農学研究科 122人
 (うち修士課程 122人)
 連合農学研究科 51人
 (うち博士課程 51人)

平成25年度

地域学部 760人
 医学部 1,195人
 (うち医師養成に係る分野 525人)
 工学部 1,800人
 農学部 1,010人
 (うち獣医師養成に係る分野 210人)

化学・生物応用工学専攻 72人
 (うち修士課程 60人)
 (うち博士課程 12人)
 社会基盤工学専攻 93人
 (うち修士課程 78人)
 (うち博士課程 15人)

農学研究科

フィールド生産科学専攻 50人
 (うち修士課程 50人)
 生命資源科学専攻 42人
 (うち修士課程 42人)
 国際乾燥地科学専攻 30人
 (うち修士課程 30人)

連合農学研究科

生物生産科学専攻 18人
 (うち博士課程 18人)
 生物環境科学専攻 15人
 (うち博士課程 15人)
 生物資源科学専攻 12人
 (うち博士課程 12人)

地域学研究科	60人
(うち修士課程)	60人)
医学系研究科	326人
(うち修士課程)	82人)
(うち博士課程)	244人)
工学研究科	369人
(うち修士課程)	306人)
(うち博士課程)	63人)
農学研究科	122人
(うち修士課程)	122人)
連合農学研究科	51人
(うち博士課程)	51人)

平成
26
年
度

地域学部	760人
医学部	1,205人
(うち医師養成に係る分野)	535人)
工学部	1,800人
農学部	1,010人
(うち獣医師養成に係る分野)	210人)

国際乾燥地科学専攻	6人
(うち博士課程)	6人)

地域学研究科	60人
(うち修士課程)	60人)
医学系研究科	326人
(うち修士課程)	82人)
(うち博士課程)	244人)
工学研究科	369人
(うち修士課程)	306人)
(うち博士課程)	63人)
農学研究科	122人
(うち修士課程)	122人)
連合農学研究科	51人
(うち博士課程)	51人)

平成
27
年
度

地域学部	760人
医学部	1,205人
(うち医師養成に係る分野)	535人)
工学部	1,800人
農学部	1,010人
(うち獣医師養成に係る分野)	210人)

地域学研究科	60人
（うち修士課程	60人）
医学系研究科	326人
（うち修士課程	82人）
（うち博士課程	244人）
工学研究科	369人
（うち修士課程	306人）
（うち博士課程	63人）
農学研究科	122人
（うち修士課程	122人）
連合農学研究科	51人
（うち博士課程	51人）